

2025年度 METI海外貿易会議（航空機）報告

その2

今回は、標記訪問の2回目の報告である。レオナルド社（イタリア、ミラノ・トリノ）への訪問について報告をおこなう。なお、これらの訪問は、レオナルド日本支社長の Daniel Alzetta 氏を中心にご調整いただきました。

1. レオナルド社ミラノ地区訪問

訪問日時 September 8, 2025 (9:00-)
訪問先名称 Leonardo Helicopters Division,
Leonardo Aeronautics Division



同社概要

(2024年度 経営数値 同社HPより)

売上 17.8 bn Euro (約3兆250億円)
受注残 44.2 bn Euro (約7兆5150億円)
EBIT 1.3 bn Euro (約2200億円) / 率
にすると約7.3%
従業員数 60,468人 (世界に129拠点)
R&D投資 2.5 bn Euro (約4250億円)

（事業領域）

Electronics, Helicopters, Aircraft, Cyber & Security, Space
Uncrewed Systems, Aerostructures, Automation

（訪問先の主な面談者）

Tommaso PANI, SVP Marketing & Sales,
Aircraft Business Unit, Aeronautics Division
Giacomo ZAMPETTI, VP Marketing,
Helicopters Division
Daniele ALZETTA, President, Leonardo Japan

(現地でのスケジュール)

9:00-9:15 Arrive at Leonardo Helicopters - Vergiate Plant
9:15-11:15 Greetings, Brief Statements by Mr. Saito and Mr. Kimura
Briefings on Leonardo Group, Helicopters Division and UAV, Aeronautics Division overview, M-346 Presentation
11:15-12:15 Factory Tour (Final Assembly Line, Delivery Center)
12:15-13:15 Buffet Lunch
13:15-13:30 Transfer to Leonardo Helicopters - Sesto Calende Training Academy
13:30-15:00 Visit to Maintenance and Full Flight Simulators, HEMS bay, Diagnostic Service Tower, Simulators
15:00-15:45 Transfer to Leonardo Aeronautics Division - Venegono Plant
15:45-17:00 Greetings, Visit to the Facilities GBTS (Ground Based Training System), M-346 Production and Assembly Line (Hanger 4 and 3), M345 Assembly Line (Hanger 8)
17:00 End of visit
18:30 Dinner (Hosted by Leonardo)

訪問は、予定通りレオナルド社の全体像についてのプレゼンテーションより始められた。同社は、約6万人の陣容であり、世界中に129の拠点がある。陣容の6割がイタリア国内に勤務している。株式は、イタリア政府が30.2%を保有している。主な合弁会社はATR社で同社は50%の株式を保有している。2024年の売上は、17.8 bn Euro（約3兆250億円）であり、その43%が防衛電子&セキュリティ分野であり、ヘリコプター分野は29%、航空機は16%の割合をしめている。

2025年の企業戦略は、“Catalyst for the new European Defence”であり、Air、Space、Maritime、Landの分野で事業に取り組んでい

く。GCAPも重要なプログラムである。同社CEOのRoberto Cingolani氏は日本（東京大学）で客員教授を務められた経験があるとのこと。

同社の研究開発投資についても説明があった。1万7千人の研究者がおり、デジタル分野のほかに、Autonomous、Quantum、Advanced Power & Energy、Materials、Optronicsが研究分野である。

サプライチェーンについては、11.6 bn Euro（約1兆9720億円）をサプライヤーより調達している。世界中に11,000のサプライヤーがあり、そのうち7,000がSMEsである。

同社のサステナビリティについての説明に続いて、同社の国際的なコラボレーションプログラムについて、簡単な紹介があった。



レオナルド社の世界拠点について（同社プレゼンテーション資料より）

Global business



レオナルド社の事業領域について（同社プレゼンテーション資料より）

GCAP、EUROFIGHTER、ATRのほかにLRMV (Leonardo Rheinmetall Military Vehicles)、EURODRONE、NH90ヘリコプターなどが紹介された。

続いてヘリコプター部門のプレゼンテーションが行われた。同事業部門の目標 (Goal)

“To be at the forefront of vertical lift solution for the benefit of our customers and society” が最初に紹介された。

同社のヘリコプターは、1,500の顧客で使われており、4,550機が140か国で運用されているとのこと。製品はデュアルユースを基本とした小型 (0.5トンのペイロード) から大型 (16トンのペイロード) を持つものまで幅広くそろえている。Tilt Rotor型のAW609型機もあり、商業タイプのTilt Rotor機としては初めてFAA (米国航空局) の型式認証を取得する予定である。同社のヘリコプターは災害救助用や防衛用についても広く採用されており、同社のVIP市場向け“AGUSTA”ブランドの名称も広く知られている。

同事業部門は、14,300人の陣容であり、その教育に多くの時間 (年間284,000時間) をあてている。サプライヤーは世界中に1,500社あり、そのうち500社はSMEsである。そしてヘリコプターの運用を支援するために100か所以上のサービス拠点を設けている。

ヘリコプターの最終組立工場 (Vergiate工場) についての説明も行われた。最終組み立て工場は、全長が365メートル、幅は52メートル、高さ12メートルある大きな工場である。従業員は1,500人であり、今までに6,000機以上のヘリコプターを生産している。最終組み立て工場に隣接して、塗装工場、ケーブル工場、倉庫などがあるほかに、In Flight Trainingの施設や滑走路がある。組み立て工程は、Final Assembly → Flight Line → Painting → Interiors → Delivery となる。工期はフライテスタを含めて2か月から3か月である。

同事業の将来像についても説明が行われた。既存のヘリコプターに加えて、Fast Rotorcraft、Rotary UAS及びAAM (Passenger Transport) を考えているというものであった。



ヘリコプター事業の将来構想について (同社プレゼンテーション資料より)

その後、ヘリコプターの最終組立工場 (Vergiate工場) を視察した。プレゼンテーションでは、フライトテストを含めて2か月から3か月の工期との説明があったが、その数値を裏付けるように機種別にセル化した生産が行われていた。

昼食後は、ヘリコプター部門の Sesto Calende Training Academy を視察した。そこでは、フライトシミュレーター、Diagnostic Service Towerなどを視察した。フライトシ

ミュレーターはカナダのCAE社との合弁会社 (ROTORSIM社) のものを使用しており、FAA (米国航空局)、EASA (欧州航空局) CAA (英国航空局などの認証を得たもので、AW349、AW169、AW189/AW149などの訓練ができる設備であった。カスタマーサポートセンターは世界中で運行されている同社のヘリコプターの運用状況を把握し、顧客との契約に基づいて故障診断の予防や原因解析をおこなうサービスを提供しているとのことであった。



Vergiate工場を背にした集合写真（レオナルド社提供）



Vittorio Della Bella氏 (Senior VP, Customer Support & Training) と齋藤団長
(レオナルド社提供)

次に同社のVenegono工場を訪問し、基本訓練設備のほか、M-345とM-346の最終組み立てラインを視察した。

なお、同日の午前中には同社の航空機部門の概要についてのプレゼンテーションがあつたのでその概要について記す。

同社の航空機（Aeronautics）事業は、Aircraft部門、サービス部門、Aerostructure（航空構造物）部門の3つの構成である。7,219人の陣容で、ミラノ・トリノ地区の事業所のほかに、イタリア南部（CAMPANIA州Pomiglianoなど）にも事業所がある。

同事業部門が関係するジョイントベンチャーはEurofighter (Typhoon) 21%のシェアーやATR50%のシェアのほか、米国に100%のシェアーを持つ子会社がある。

同事業部門は1913年に始まり110以上の歴史がある。今までに30,000機以上の生産を行っている。

現在の製品ラインナップは、練習機としてM-345、M346 T Block 20がある。作戦機ではM346 Block 20、Eurofighter TyphoonがありGCAPも始まっている。輸送機としてC-27の各種タイプのほかATRがある。そのほかに、UAS (Uncrewed Aircraft System)、Eurodrone、ターゲットドローンなどがある。

続いてAircraft Trainingとしてのプレゼンテーションがあった。M-345練習機はイタリア政府（同機を18機運用）向けとのこと。M-346練習機は世界で146機の販売を支えるものであり、イタリア政府以外にもシンガポールなどの顧客がある。同社は、IFTS (International Flight Training School) を設立し、22機のM-346を実際に使ったトレーニングに加えて、シミュレーターも活用している。顧客はM-346の顧客に限らず、米国やカナダも利用しており、日本も新たな顧客となった。



Venegono 工場での集合写真（レオナルド社提供）

2. レオナルド社トリノ地区訪問

訪問日時 September 11, 2025 (12:30-)
 訪問先名称 Leonardo Aeronautics Division

(訪問先の主な面談者)

Christian AMENDOLAGINE, EVP Engineering, Aircraft Business Unit, Alberto PITERA', Caselle Plant Director - Operations & Supply Chain, Aircraft Business Unit

Mario MUTTI, SVP Flight Operations, Aircraft Business Unit

Mauro ROSTAGNO, VP Avionics Systems, Aircraft Business Unit

Giuseppe PIETRONIRO, VP Simulation & Training Systems - Engineering, Aircraft Business Unit

Daniele ALZETTA, President, Leonardo Japan

(現地でのスケジュール)

12:30-13:15 Arrive at Leonardo Aeronautics, Caselle South Plant
 Welcome & Standing Lunch (VIP Room, Company canteen)
 13:15-14:15 Brief Statements by Mr. Saito and Mr. Kimura
 Briefing on Caselle and Turin Plant including Engineering and Innovation Program Overview
 14:15-15:00 Aircraft Static Display
 15:00-15:30 Transfer to Leonardo Aeronautics, Torino Plant
 15:30-16:30 Arrive at Leonardo Aeronautics, Torino Plant
 Visit to
 Pc2 Lab and Virtual Lab (Group A), Virtual Lab and Pc2 (Group B)
 Visit Virtual Lab (Group A), Pc2 Lab (Group B)
 16:30 End of the visit
 18:30 Dinner (Hosted by METI Delegation, invite Leonardo)



レオナルド社Aeronautics部門の事業所について (同社プレゼンテーションより)

まず、同社のAeronautics部門のプレゼンテーションが EVP の Christian AMENDOLAGINE 氏より行われた。同部門は、戦闘機分野では Eurofighter プログラムのパートナーであり、F35 のパートナーでもある。練習機モデルを改良した M-346FA の生産も行っている。練習機分野では、M-345 と M-346 の生産を行っており、これらの航空機を用いて IFTS (International Flight Training School) を運営している。その他の分野の航空機として、C-27J Airlifter や ATR 42/72 がある。無人機分野では、EURODRONE があり、コンポーネントとなるが民間航空機用のエンジンナセルを生産している。

同事業部門は 7,220 人の陣容で、75% が理科系の人材となり、イタリアの北部を中心としている。

次に、Caselle 事業所 Director の Alberto PITERA 氏より今回訪問した Caselle 事業所の説明があった。同事業所は南／北の事業所がトリノの Caselle 空港の滑走路を挟んで位置しているとのこと。同事業者は 1,628 人の陣容で、平均年齢は 44 歳となり、全体の約 45% が

生産に従事している。多様なプログラムの複雑な製品の生産にあたっている。

サプライヤーは 413 あり、約 9 割は欧州地域からの取引であり、アジア地区は 1% ほどしかない。

同事業所は、1950 年に設立され、米国の航空機 (F89、F104 等) のライセンス生産から始め、その後は Eurofighter の生産や C-27J の最終組み立てを行っている。将来的には GCAP の同社での拠点になる予定である。

Caselle の南事業所には、フライトテストの実施拠点や製品を顧客へ引き渡しをおこなう Delivery センターがある。また、研究開発用の設備もあり、太陽からの光をコックピットで体感できるようにした “The Sky Light Simulator” と製品の電波の反射を計測できる “The Anachronic Chamber Facility” をその後に視察した。

当日はその後に Torino の事業所を訪問したが、そこで行われていることとして、Technologies & Innovation, Engineering (R&D)、カスタマーサポートサービス & トレーニングをあげていた。



Caselle 南事業所での C-27J をバックにした集合写真（レオナルド社提供）

プレゼンテーションでは、研究開発については能力や将来の方向性について説明があった。まずは、将来の航空機技術のポイントとして5つあげていた。

#1 - Advanced Digitalization & Artificial Intelligence

#2 - Next Gen Pilot Training, AI-Powered in Multi-Domain

#3 - Care for Flight, Powered by Digital Services

#4 - Disruptive Innovation & Flying Labs, Solvers Wanted, Speed to Field

#5 - Engineering support in LO/VLO Aircraft realization

技術能力（Engineering Capabilities）については、ライフサイクルでのDigital Twin Capabilities Interconnectionsであり、具体的には、AI Technologies & Simulations、Aircraft Factory、Digital Labs & HPC Infrastructureをあげていた。

同事業所の視察では、Simulation & Synthetic Trainingの施設を視察した。バーチャルシミュレーション、AR/VRを用いたシミュレーション、Verticalを用いた整備トレーニ

ングなどを実際に体験した。製品を使用するユーザーの訓練についても盛んな取り組みを行っていることが印象的であった。なお、9/11午後の訪問にあたって対応してくださった上記の4名を夕食にご招待し、懇親を深めた。

3. 所感

各位よりご支援いただき、2025年度のMETI貿易会議（航空機）を実施することができました。ありがとうございました。今回のMETI貿易会議の趣意書には、欧州のOEM企業を訪問し、その事業運営についての知見を得ること、そのほかの企業訪問では欧州のサプライチェーンについての知見を得ることが目的として記されていた。参加された各位にとって、この目的に沿った訪問の成果が得られていれば、事務局の一人として何よりである。参加者への帰国後のアンケートでは、具体的な訪問先を含めて来年も実施の要望をいただいている。関係者とも調整をおこない、2026年度も実施できればと考える。その際は会員企業各位の参加をお待ちしております。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 国際部部長 羽中田 実〕